

Urban Saxophone Quartet

Saxophone

サクソフォン

SONORITY

ソノリティ



アクティビティ 国立市立第五小学校

2021年2月9日(火)

4年2組 10:35 ~ 11:20 / 4年1組 11:25 ~ 12:10

アクティビティ 国立市立第七小学校

2021年2月10日(水)

4年2組 10:20 ~ 11:05 / 4年1組 11:10 ~ 11:55

ミニコンサート 旧国立駅舎ショーケースライブ

2021年2月10日(水) 17:30 ~ 17:55 / 18:15 ~ 18:40

ホール公演 Saxophone SONORITY

2021年2月11日(木・祝) 13:30 ~ 14:30 / 16:30 ~ 17:30

主催：(公財)くになち文化・スポーツ振興財団 助成：(一財)地域創造 後援：国立市教育委員会 制作協力：(一社)日本クラシック音楽事業協会

お問合せ くになち市民芸術小ホール 〒186-0003 東京都国立市富士見台 2-48-1 TEL:042-574-1515 E-MAIL:hall@kuzaidan.or.jp

おんかつ

「文化と芸術が薫るまちくにたち」のために、国立市と芸術小ホールは公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）に取り組んでいます。アーバンサクソフォンカルテットのみなさんと国立市第七小学校と第五小学校でアクティビティを行いました！



サクソフォンという楽器は聞いたことがあるけど、4種類もあるの知ってた？



曲の様子や題名をみんな考えてみたら

いつも歌っている学校の校歌をサクソフォン四重奏で聴くと...



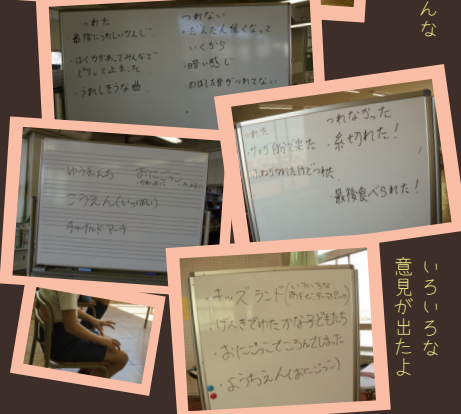
第七小学校4年生



近くで聴く音はこんな聴こえ方するんだね



第五小学校4年生



いろいろな意見が出たよ

▲コンサート当日、前日までのアクティビティの写真をパネル展示。子どもたちと一緒に訪れた保護者たちにも様子が伝わる工夫

公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）とは

「公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）」はクラシック音楽の演奏家を地域に派遣し、公共ホールでのコンサートとアクティビティ（参加体験型の地域交流プログラム）を共につくる事業です。アクティビティは普段、クラシックの演奏会に足を運ばない人に興味を持ってもらうため、様々な工夫を凝らした訪問コンサート企画です。コンサートは、アクティビティで触れあった地域の方々へ、アーティストとホールの担当者によるオリジナリティ溢れるプログラムを実施します。国立市ではこのおんかつ導入プログラム実施後のフォローアップ事業であるおんかつ支援プログラムとして、さらなる定着を目指し柔軟な事業展開が行えるプログラムです。



おんかつ

音楽との幸福な出会いを

公共ホール音楽活性化事業（おんかつ）の一端です。普段クラシック音楽に触れる機会が少ない人に興味を持ってもらうための交流プログラム「アクティビティ」と、本格的で親しみやすい、かつオリジナリティ溢れるプログラムのコンサートを行っています。国立市では本コンサートと共に市内の小学校でアクティビティを行い、子どもたちに本物と身近に触れ合う機会を作ります。クラシック初心者にも、愛好家にも、音楽との幸せな出会いを。

Urban
アーバン
Saxophone
サクソフォン
Quartet
カルテット

Saxophone
サクソフォン
SONORITY
ソノリティ

Urban Saxophone Quartet アーバンサクソフォンカルテット

2013年結成。ラ・フェル・ジュルネ・オ・ジャポン エリアコンサート、NPO法人「街角に音楽を」企画コンサートに多数出演。
2017年「バレンゴラン」の Ballet Genes と共演し、ジャンルを超えたコラボレーションが注目を集めた。

第20回ブルックハイト国際音楽コンクール 室内楽部門最優秀賞（部門最高位）
第18回入道国際音楽コンクール アンサンブル部門 第2位（1位なし）
第5回サンハート・アンサンブル・オーディション 最優秀賞 聴衆賞 長浜ホール賞 アリ出版社賞
（一財）地域創造 公共ホール音楽活性化アワード・フォーラム事業 平成26年度島根セッション 派遣アーティスト
（一財）地域創造 公共ホール音楽活性化事業 登録アーティスト
サルビア・アーティストバンク2020 登録アーティスト
2019年、Studio N.A.T.より、1st Album 「meets」をリリース。 オフィシャルHP: <https://www.urbanesax.com/>

千葉一吾 Kazuki CHIBA
(Soprano Saxophone)
国立音楽大学演奏学科卒業、リストコース修了。サクソフォンを小嶋松太郎、下地啓二、菅井雅人各師に、室内楽を菅井雅人、下地啓二、境上典彦各氏に師事。

中村優香 Yuuka NAKAMURA
(Tenor Saxophone)
武蔵野音楽大学卒業、フランス地方ジャズダンス音楽院を専攻。津田一致の特別最優秀賞で修了。第3回ル・マニエール国際音楽コンクール第3位、2012年度パリ・サクソフォンコンクール Honneur 部門第2位入賞。

西田早希 Saki NISHIDA
(Alto Saxophone)
兵庫県加古川市出身。大阪音楽大学を経て、昭和音楽大学大学院修士課程を修了。第4回ゴヤサックスコンクールアンサンブル部門第1位。第14回ワルネリス加古川新人演奏会に出演。

中村賢太郎 Kentaro NAKAMURA
(Baritone Saxophone)
昭和音楽大学大学院修士課程を修了。在学中に給費生に選抜される。第17回日本クラシック音楽コンクールにて最優秀を受賞。在京吹奏楽団の公演にピエスタとして出演。昭和音楽大学附属音楽・バレー教室講師。

コロナ禍で試される、音楽の力

前年度の終わり頃から新型コロナウイルス感染症が流行し始め、4月5月は緊急事態宣言発出となり、開催が危ぶまれるなかでの事業進行となりました。

感染予防のための、ホールの定員制限と観客の不安軽減を考えて、休憩なしの60分公演(入れ替え制)を2回実施することとしました。アクティビティとミニコンサートも同様に少数の入れ替え制にすることで、アーティストと観客、観客同士の距離を維持し、開催しました。

アクティビティは各学校でのルールに則り、ビニールシートの設置や児童との距離を大きく開けるといって何とか開催にこぎつけました。

アクティビティ/ホール公演の内容に関して、Urban Saxophone Quartet(以下USQ)のメンバーとメールで直接やりとりし、先生や子どもたちに寄り添ったプログラムを考えました。

たくさんのメッセージを含めたアクティビティ

アクティビティ 演奏曲目

「鬼滅の刃」より「紅蓮華」/LISA

校歌(五小/七小それぞれ自校)

G線上のアリア/J.S. バッハ

サメ/A. ピアソラ

かくれんぼ/R. クレリス

「サクソフォン四重奏曲」より「第三楽章」/A. デザンクロ

ステイホーム期間に爆発的な人気となった「鬼滅の刃」の主題歌「紅蓮華」をアクティビティの冒頭に演奏しました。流行歌を1曲丸ごと演奏することに関しては印象が強すぎるのでは?という懸念もありましたが、学校で他の行事がごとごとく中止になっている中で、絶望的な状況下でも強靭な精神力で立ち向かう主人公たちが浮かび、強くなれるオープニング!



▼第五小学校/ビニールシートを設置して実施



▼第五小学校/ひとつずつの楽器を紹介



自己紹介の際にも、その楽器らしい音域で流行歌のワンフレーズを演奏。千葉さん(ソプラノ)|ルパン三世のテーマ、西田さん(アルト)|さんぽ、優香さん(テナー)|名探偵コナン、賢太郎さん(バリトン)|ゲゲゲの鬼太郎。楽器ごとの違いに驚きながら、テレビや動画好き世代のこどもたちは「知ってる～」という表情で、生演奏の迫力に、はやくも引き込まれている様子。

次の千葉さんの「この曲知ってるかな…」というフリで繰り出される自校の校歌のフレーズ。「もちろん知ってるよ！ 知ってなかったらヤバイ！」というこどもたちの素直な反応が嬉しい瞬間でした。

普段は歌の部分としてメロディーを追ってしまうけれど、他の音にも役割があって、1本のサクソフォンから2本、3本と丁寧にひとつずつ重ねたフレーズを聞かせて、印象を聞く。このプログラムでこどもたちの目に見る理解と興味が広がっていく様子がわかりました。

3曲目はさらにつっこんだプログラム。優香さんから「ピアソラさんという人がサメを釣りに出掛けたときの曲、釣れたか釣れなかったか、あとで聞くから想像しながら聞いてみて」との投げかけに、より一層真剣に曲に向き合うこどもたち。4回のアクティビティそれぞれ、釣れたり釣れなかったり、意見がわかれました。それぞれに釣りの様子やサメが暴れたりする様子を想像して、その意見を共有することで音楽の新しい楽しみ方と面白さを自然と覚えていきます。

4曲目は3曲目とまた違う角度で問題提起。曲を聴いて想像を膨らませて、今度は題名もつけてみよう。こどもたちが遊びまわっている様子、自分たちの日常と重なるような設定に、身近な遊びや風景を想起。そして、それをこどもたちそれぞれのセンスで言葉を選び題名が完成。どれもいいね、と千葉さんの感想にうなづく横顔が並びました。

あっという間に最後の曲「今日みんなに話したことがギュッとつまっていて、メンバーのみんなが大切に演奏してきた曲です」と賢太郎さんが紹介してくれた「サクソフォン四重奏—第三楽章」。少し長くて、誰も聴きなれていないはずの曲をじっと聴き入るこどもたちがいました。

盛りだくさんの要素が詰めこまれたプログラム。ただ聴くだけではない、音楽というもののその先にある、人を成長させてくれる、自分も他者も大切にするというメッセージまで込められた温かいプログラムとなりました。



▲第五小学校 / ひとつずつの楽器を紹介



▲サクソフォンで知ってる人？

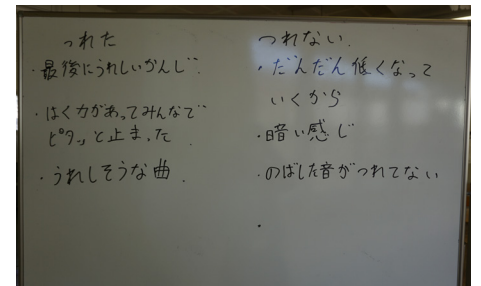


▲第七小学校 / 児童同士でも意見を交換

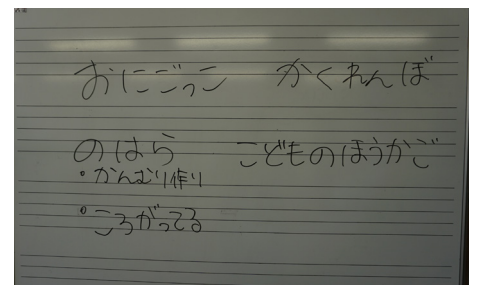


▲距離を大きく空け、演奏時以外はマスク着用

▼ディスカッションボード(サメ)



▼ディスカッションボード(かくれんぼ)





響き と出会いのミニコンサート

ミニコンサート 演奏曲目

「鬼滅の刃」より"紅蓮華"/LISA
 エーデルワイス /R. ロジャース
 G線上のアリア /J.S. バッハ
 サー・パトリック /P. ガイス
 「ウエストサイドストーリーより」
 "マリア" "アメリカル. バーンスタイン"

旧国立駅舎でのミニコンサートでは、普段クラシックやホールに興味のない人に、より広く音楽を届ける！ という目的と、旧国立駅舎での本格的な楽器コンサートの初実施を成功させるという目標がありました。

USQは直前のリハーサルで施設の響きを確認、建物全体に広がる音を奏法とポジショニングによって調整することで、施設内外すべての人をサクソフォン四重奏の響きで魅了しました。

運営側としては、当初通りがかりの人が気軽に立ち寄れることを理想としていましたが、緊急事態宣言下ということで急遽、入場規制を設けました。予定していた定員20名は2回とも満員となり、施設のまわりでも立ち止まり聴き入る人々が多く見られました。施設脇のスペースでたたずみ楽しむ人や、開放した窓枠から覗き込むこどもの姿もありました。

演奏曲目は小学校アクティビティと同じ"紅蓮華"で注目を集め、全体的にポピュラーな選曲でまとめました。中でもサー・パトリックはリズムカルなパッセージが続く祝祭的な雰囲気漂う曲。沈みがちな人々の気持ちを明るく照らすような、寒い2月ということをお忘れるようなプログラムになりました。

▲寒い2月とは思えない華やかなミニコンサート
 楽器が冷えるので角の窓を閉めるなどして対応

▼窓の外から覗き込むこどもたち



▼ホールコンサートとホールアクセスをパネルで紹介

旧国立駅舎が新たな文化・芸術の発信拠点に

旧国立駅舎 ショーケースライブ

94年の歴史上初めて、館内にサクスが鳴り響く

Urban Saxophone Quartet

Saxophone SONORITY

Urban Saxophone Quartet
 中野一幸 (Shigenori Nakano) 吉田早希 (Aki Yoshida)
 中野真太郎 (Shinichiro Nakano) 中野真由美 (Miyumi Nakano)

本日 2月10日
 17:30～広間 観音無料

明日はホール公演!!

2月11日(木・祝)
 13:30/16:30 ¥1,500

旧国立駅舎内まち案内所にてチケット販売中

本日ご購入の方限定!!
 サイン入り
 ポストカード
 プレゼント

くたちまち市民芸術小ホール
 ACCESS
 2F 国史館 南口114番乗場
 南口駅 / 旧国立駅舎 / 国立美術館 1F 行
 「市民芸術の小ホール」総合案内所前、下車

身近 でありながら 特別 でもあるホールコンサート

ホール公演 演奏曲目

かくれんぼ /R. クレリス

チャルダッシュ /V. モンティ

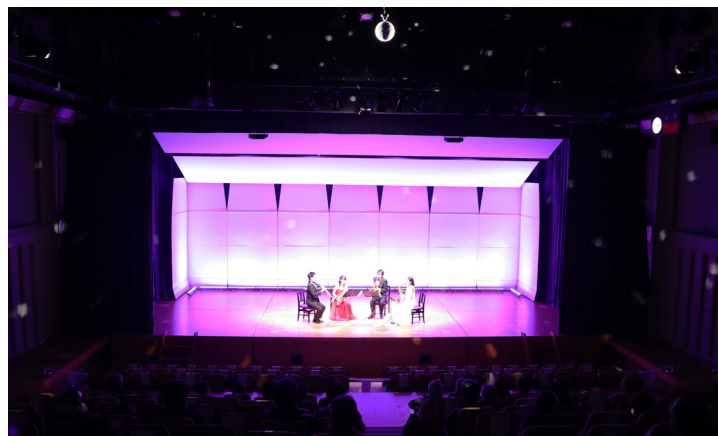
G 線上のアリア /J.S. バッハ

アミューズメント・パーク組曲 / 高橋宏樹

ムーン・リバー /H. マンシーニ (編曲: 山田純子)

サクソフォン四重奏曲 /A. デザンクロ

EC: 彼方の光 / リベラ



▼ 「アミューズメント・パーク組曲」 LED ライトとミラーボールで演出



▲ 「ムーン・リバー」 LED ライトとプロジェクタ映像の演出

ホール公演は、2月でありながら爽やかな日差しが注ぐ祝日の午後に行うことができました。一般のお客様に交じって、アクティビティに参加した子どもたちが誘いあって来館。感染症予防のため、定員336席分のホールを前列3列と一席おきの定員135席(約40%)の自由席としました。その他も、客席での会話を控え、連絡先記入などにもご協力いただきました。その協力に対し、スマートな行動をすることもたちに一般のお客様から驚きと歓迎の声をいただきました。

プログラムは前日までと同じ部分と違う部分をバランスよく持つ内容。MCではサクソフォンを分解して、それぞれの部分だけで音を聴かせ、楽器のしくみを紹介する場面も。初心者も愛好家も楽しませてくれる工夫がここにも。

アクティビティで題名を覚えてもらった曲(かくれんぼ)はコンサートで再び聴いて作者のつけた題名も知ることになります。子どもたちにとっては繋がった喜びに。G線上のアリアも、3つ全てのシチュエーションで演奏されましたが、どれも響きが違い、それを感じてもらえるとより楽しめる仕掛けとなりました。

アミューズメント・パーク組曲ではホールの舞台設備ならではのLEDライトを使い、鮮やかな色合いで演出。遊園地でアトラクションを回るように、次々に変わる曲と背景を楽しむ趣向。メリーゴーランドではミラーボールを回し、客席を含む会場全体がアトラクションのような雰囲気になりました。ムーン・リバーは背景に月を配し、しっとり曲と響きに浸ることができるように。短い曲ですが、非日常の空間を味わえる演出。

サクソフォン四重奏曲もアクティビティで演奏した曲ですが、第一楽章から第三楽章までの完全な組曲をたっぷり。サクソフォン四重奏のための曲を聴く機会が、子どもたちだけでなく、一般のお客様からも初めてだったという声が聴かれ、改めてサクソフォンの良さ、サクソフォン四重奏の響きの魅力が伝えられました。

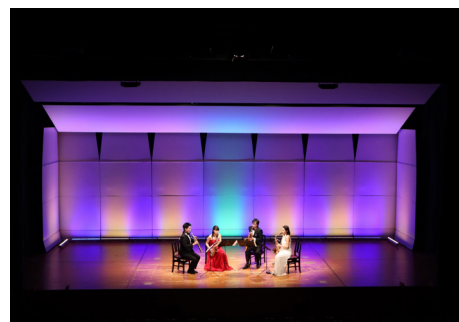
アンコールで演奏された彼方の光がまた一際心に響く一曲。先行きの見えない情勢の今、一筋の光のように癒しの調べとなり会場のお客様に届きました。



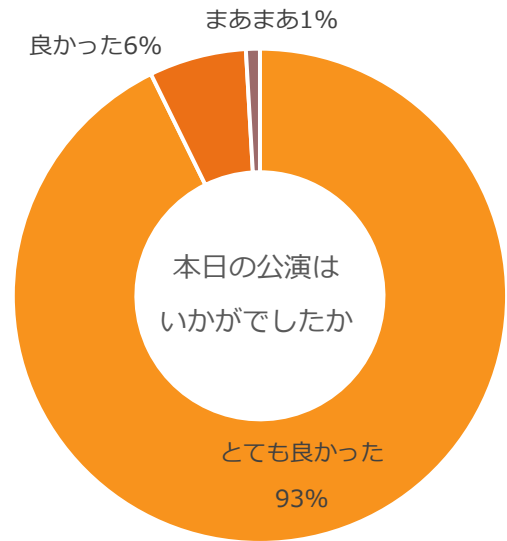
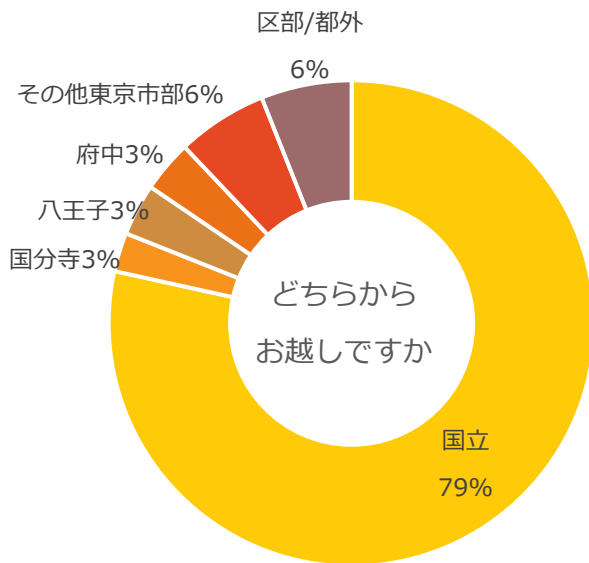
▲マウスピースとネックの音を紹介



▲ 「アミューズメント・パーク組曲」より
メインストリート



▲ 「アミューズメント・パーク組曲」より
ローラーコースター



入場者数 147 名のお客様から 116 枚のアンケートをいただきました。約 8 割の回収率は様々な事業のなかでも特出して多い部類。その内容としても、絶賛するものがほとんどでした。

アンケートより抜粋（原文ママ）

こどもたちやクラシック初心者から

曲の説明がわかりやすく、音の響きも素敵でした。

なかなか生の四重奏を聴く機会がないのでよかった。子どもが授業で聴けて”よかった”と興味を持ったようです。

音楽のことはよく知らなくてもサクソフォンのやさしい暖かい音色に本当に癒されます。

1 回聞いたけど、2 回目も感動！

——その他、一小、桐朋小にも来てください。また聴きたい！との声も多数いただきました。

クラシック愛好家や久し振りの方から

サクソフォンの四重奏がこんなに素晴らしかったかなと改めて実感した。

手アカにまみれた G 線上のアリアが新鮮な響きで、曲の本来の美しさがよみがえられていて感動した。

同じ楽器ならではの響き合い、正にソノリティに感動しました。USQ の 4 人の息の合っている仲良さ感が心地良くとても楽しいコンサート。

アンサンブルの魅力がたっぷりあじわえました。あたたかみのある音色に感動しました。

久々のコンサートホールで聞く音楽、嬉しかったです。

継続的な実施の重要性

小規模のアウトリーチはひとりひとり確実に手を差し伸べられるメリットがあるが、すべての子どもたちが芸術に触れる機会を届けるためには、まだまだ道のりは長いです。市立小学校が8校、私立小学校が2校、10校の教育機関と連携のパイプを繋げること、さらには中学校、学童や放課後学習室などの学校以外のコミュニティにも連携の輪を広げ、より包括的な子どもたちの環境整備へと繋げる必要があります。

生の演奏、アーティストの生の声、どちらも子どもたちにとってかけがえのない経験、未来を切り開く糧となり、成長を育む公共ホールとして、あるべき姿を模索し続けるために、まずは継続した事業を実施していきたいと思えます。(事業担当：竹内恵美子)

令和2年

公共ホール音楽活性化支援事業
国立市(支援プログラム)

くにたち文化・スポーツ振興財団
くにたち市民芸術小ホール

アーティスト：

Urban Saxophone Quartet

(千葉一喜 西田早希 中村優香 中村賢太郎)

マネージメント：

株式会社プレルーディオ 下平真帆 武井おさむ

ホール館長：岩澤宏明

事業担当：竹内恵美子

舞台担当：

有限会社アイジャクス 原島和久(舞台音響) 木原立春(照明)

協力：国立市教育委員会(後援)

樽見顕奈様(国立第五小学校)

西牧佳子様(国立第七小学校)

ヒシヌマヒデユキ様(旧国立駅舎)

公共ホール音楽活性化事業 発売中

Urban Saxophone Quartet 禁白

Saxophone SONORITY

2月11日 木・祝 全席自由

I部 13:30(開場 13:00) / II部 16:30(開場 16:00) ホール

初めてホールで音楽を聴く人にも、久しぶりのコンサートに出掛けたい人にも、四人のハーモニーが優しく響きます。迫力の鑑賞体験をホールで味わってください。

Urban Saxophone Quartet : 千葉一喜 (Soprano Sax.) 西田早希 (Alto Sax.)
中村優香 (Tenor Sax.) 中村賢太郎 (Baritone Sax.)

M. モンティ/チャルダッシュ 高橋宏樹 / アミューズメント・パーク組曲
H. マンシーニ/ムーン・リバー A. テザンクロ / サクソフォン四重奏曲 ほか インタビュー動画

¥1,500円 P Youtube で配信中

後援：国立市教育委員会 助成：(一財)地域創造 制作協力：(一社)日本クラシック音楽事業協会

Interview

くにたちとアクティビティとコンサートについてお話を伺いました

千葉：国立市といえば、僕が国立音楽大学というところを卒業して、国立市から知り合いがよく通っていたので、お家に行ってリハーサルをしたり、本番を見に行ったり、学生時代を過ごした青春の場所です。そこに帰って行くようで感慨深いです。

中村(賢)：僕も国立は毎年秋のお祭りの天下一で演奏をさせてもらっています。春には大学通りを毎年車でドライブをして、桜を見に行きます。



旧国立駅舎広間にて プレコンサート決定! 時間等詳細は 公式ツイッターで発表!

左後：中村優香さん、左前：中村賢太郎さん、右後：千葉一喜さん、右前：西田早希さん

千葉：そんな国立なんですが、まず小学校に伺います。僕たちは4人が協力して演奏しているのですが、それぞれに個性があって、それぞれ違った考えをもっています。だけど、違う人たちが力を合わせるからこそ、何か1人では生み出せないものが生み出せる! その人たちならではのものが、創り出せる! それは演奏だけではなくて色々な分野にも言えることだと思っています。それぞれ個性がある人たちが力を合わせるとこういうものができるんだ! ということを演奏で小学生たちに見てもらって、想いを巡らせて欲しいなと思っています。

中村(優)：4人で行くのが初めてなので、アウトリーチも本当に楽しみにしております!

西田：最終日のコンサートは「Saxophone SONORITY(サクソフォンソノリティ)」という題名をつけております。ソノリティというのは音の「響き」のことを意味しています。休日の昼下がりに気軽に越越しいたいて、ホールの響きやサクソフォン四重奏の響きを、贅沢な時間を楽しんでいただきたいな、という思いからこの題名をつけさせていただきました。

中村(優)：コンサートの内容は、「響き」を存分に楽しんでもらえるような、パッサ作曲の「G線上のアリア」などのクラシックの名曲はもちろん、映画音楽として有名な「ムーン・リバー」など。また、サクソフォンカルテットののために書かれた四重奏曲など、オリジナルの作品も交えながら、盛りだくさんで贅沢な内容となっておりますので、きっと楽しんでいただけたらと思います。みなさんに会えるのを楽しみにしています!

▲広報誌オアシス 2021.2.3月号掲載記事